

## ◆今期間のポイント

## ＜主要じょう乱の概要＞

- 15日は、オホーツク海を低気圧が進む。気圧の谷が本州付近を通過し、日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 16日は、低気圧が千島近海で発達する。大陸の高気圧が東シナ海に張り出し、日本海が気圧の谷となる。
- 17日は、気圧の谷が北日本を通過し、日本付近は再び冬型の気圧配置となる。
- 18日は、高気圧が日本付近に移動し、冬型の気圧配置は解消する。
- 19日は、高気圧は日本の東に移動し、日本付近は気圧の谷となる。

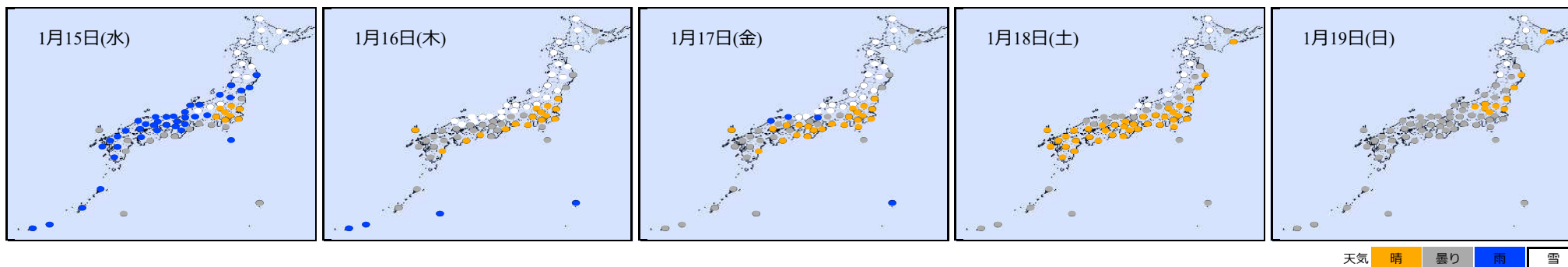
## ＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 15日から16日にかけて、冬型の気圧配置が強まるため、北日本から東日本の日本海側を中心に荒れた天気となる所がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

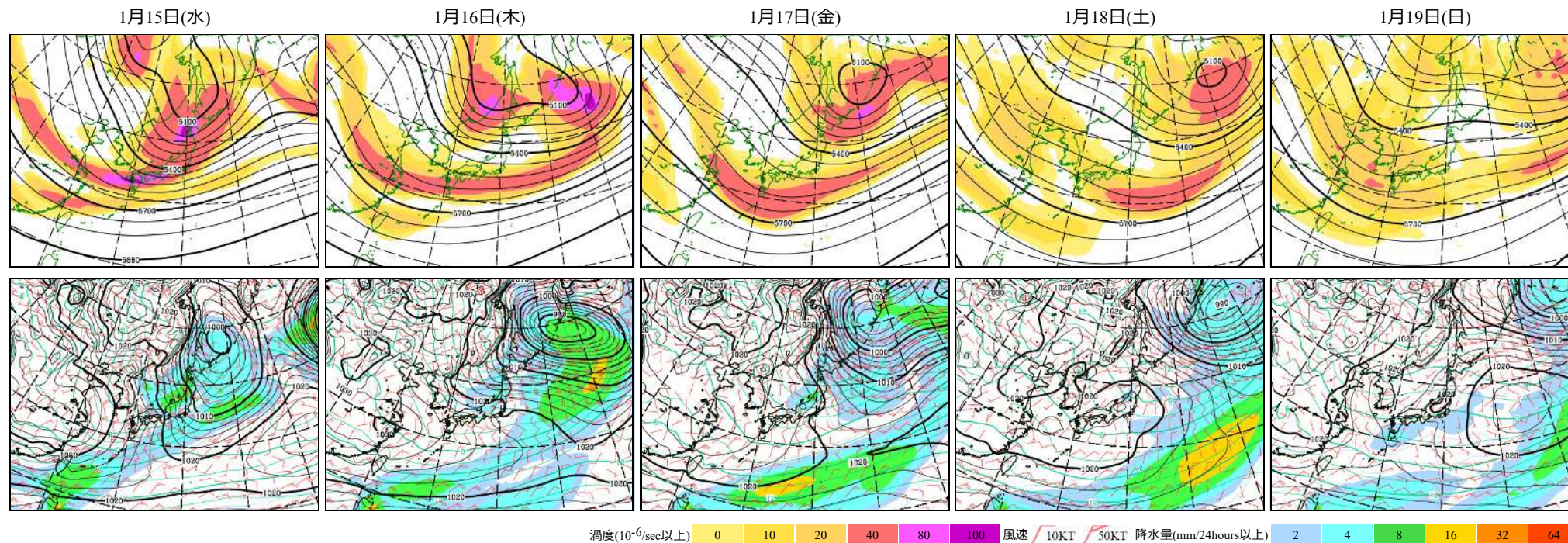
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



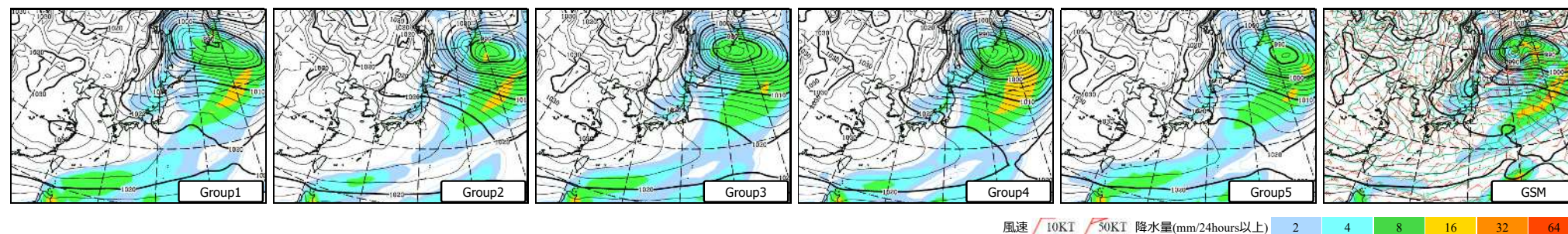
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、15日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく15日から16日は雨の降る所が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月16日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、15日に日本付近に進むトラフはやや浅くなり、進みが早くなった。16日は沿海州付近のトラフが明瞭になった。地上の気圧配置の予想は、18日は高気圧の位置が北になり、本州付近に移動する予想になった。
- 各モデルともに初期値変わりが見られるが、モデル間の差は昨日資料より小さくなった。
- 16日の日本海北部に低気圧を予想するモデルがあるが、ENSには、同様の予想をするメンバーが少数ながら含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。